

付属路の開設による効率的な生産事業への取組

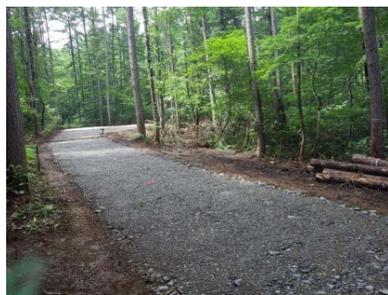
中部森林管理局 北信森林管理署
黒姫森林官 西方 雄一郎
主任森林整備官 長屋 憲明

1 課題を取り上げた背景

国有林における路網の整備は、森林の適切な整備や保全、林産物の供給等を効率的に行うため、投資効果や事業の効率性、景観等に十分配慮しつつ、林道（林業専用道）、森林作業道等とを適切に組み合わせた路網整備を進めています。

近年、伐期齢を迎えた人工林資源の充実により利用可能な人工林材が増加するなか、生産材を効率的に現地から最終土場等に運材するには、搬出機能を高める付属路や山土場の活用が極めて重要な位置付けとなっています。

黒姫山国有林1011林班においては、公道から現地まで、過去に使用した作業道は存在したものの、大型トラックの進入可能な路線はなく、当該作業道は、路面への植生の繁茂、降雨による路面洗掘等により、林内作業車の安全な走行も危惧される状況となっていました。



完成した付属路

これらの状況を踏まえ、安全かつ効率的な生産事業の実行を目指して付属路を開設し、山土場を活用した生産事業を実行したので、その結果を報告します。

2 取組の経過

今回の付属路新設箇所は、近隣に既設林道がなく、舗装された公道と国有林入口までは民有地（別荘地等）の砂利道のみであり、国有林入口から当該生産現場までは、既設森林作業道しかないことから、①生産現場までの大型トラックの進入が困難なこと、②現状では、山土場が国有林入口に

1箇所のみであることから、生産材の搬出が集中し、作業が非効率となること、等の理由から、効率的な搬出方法を検討したところ、今回の付属路の開設による生産事業に取り組むことにしました。

3 実行結果

(1) 付属路開設にあたっては、先ず現地を十分踏査し、線形については極力、従来の森林作業道跡地を利用したため、切土・盛土等の土工量や構造物の設置数を必要最小限に抑えたほか、年度当初から早期発注に努めた結果、事業着手から約4ヵ月と短い工期で完成でき、当年度事業に活用できました。

なお、当該付属路の路盤工には大型トラック等の通行に耐える構造とするため、割栗石を採用するとともに、企業努力による目つぶし及びローラー掛けを実行したため、利用後も著しい轍ができることなく強固な路体が完成しました。

また、付属路の終点には、車回しのスペースを設置し、安全かつ効率的な運材を可能としました。

(2) 当該生産現地に付属路3路線を作設し、6箇所の山土場を活用したトラック運材により、2,560m³の素材が効率的に搬出できました。

4 考察

今回の付属路開設により、今後は、素材の生産のみならず、機械地拵用の重機の搬入、苗木運搬等にも活用でき、更には、後年度における近隣事業地にも活用できる汎用性の高い付属路が完成したと考えます。

今後とも、より一層、先を見据えた効率的な付属路沿いの山土場路網計画と事業計画との調整に努めるとともに、現地の状況を見極めつつ、付属路の活用により、効率的な事業展開に取り組みたいと考えています。

